

## ツツガムシ病について

○県内では46週に1例、48週に4例、49週に6例と報告数が増加しています。今年は49週までで、計13例となっています。（隣の鹿児島県でも49週に8例報告されており、計37例）

○ツツガムシ病は、ダニの一種ツツガムシによって媒介され、野山における作業時等で、有毒ダニの幼虫に吸着され感染します。ツツガムシは秋～初冬に孵化するので、この時期に関東～九州地方を中心に多くの発生がみられます。

○潜伏期（感染してから症状が出るまでの期間）は5～14日で、典型的な症例では39℃以上の高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なダニの刺し口がみられ、その後数日で体幹部の中心に発疹がみられるようになります。発熱、刺し口、発疹は主要3徴候とよばれ、およそ90%以上の患者にみられます。

○診断は主に血清診断で行われており、診断用抗原にはKato、Karp、Gilliamの標準型に加えて、Kuroki、およびKawasaki型を用いることが推奨されています。判定は、急性期血清でIgM抗体が有意に上昇している時、あるいは、ペア血清で抗体価が4倍以上上昇した時を陽性としします。

○治療は抗生剤（第一選択薬はテトラサイクリン系）を使用します。予防のためのワクチンはなく、ダニの吸着を防ぐことが最も重要です。具体的には、発生時期を知り、野山における作業時はダニの吸着を防ぐような服装（長袖、長ズボン、手袋）をすること、作業後には入浴し吸着したダニを洗い流すこと、などです。

○ツツガムシ病は4類感染症に定められており、診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出る事になっています。

（国立感染症研究所 感染症情報センターの文献より）